

# 令和5年度三重県沿岸種資源評価（新規）

## トリガイ

### 1. 生態的特徴

トリガイ *Fulvia mutica* は、陸奥湾から九州、朝鮮半島、中国沿岸に分布し、内湾の水深10～30mの砂泥底に潜って植物プランクトンなどを食べる。寿命は2年以上で、東京湾における成長解析によれば満1歳で殻長6cm、満2歳で8cmになる。なお、養殖では春に生まれたものが8か月で殻長6cmを超え、翌春には殻長8cmに達することから、環境条件によって成長速度は大きく異なるとみられる。浮遊期間は約2週間。雌雄同体で、成長の早い個体では満1歳になるまでに産卵する。最小成熟殻長は1cm程度との情報もある。産卵は春から秋の長期にわたる。貧酸素に弱く、成長や成熟も影響を受け、2歳まで生残する個体は少ない。

上記のとおり繁殖力が大きく、貧酸素状態になりやすい内湾の深みに生息するために環境変動の影響を大きく受け、資源量の変動も大きい。県内では主に伊勢湾の底びき網で漁獲され、漁期は4～6月で他の月にはほとんど漁獲されない。

### 2. 資源評価の指標となったデータ

小型底びき網（貝桁網）で漁獲された1994～2022年の鈴鹿市漁業協同組合における漁獲量により、資源水準と動向を判断した。

### 3. 資源評価結果

資源水準：低位

資源動向：減少

### 4. 資源評価の根拠

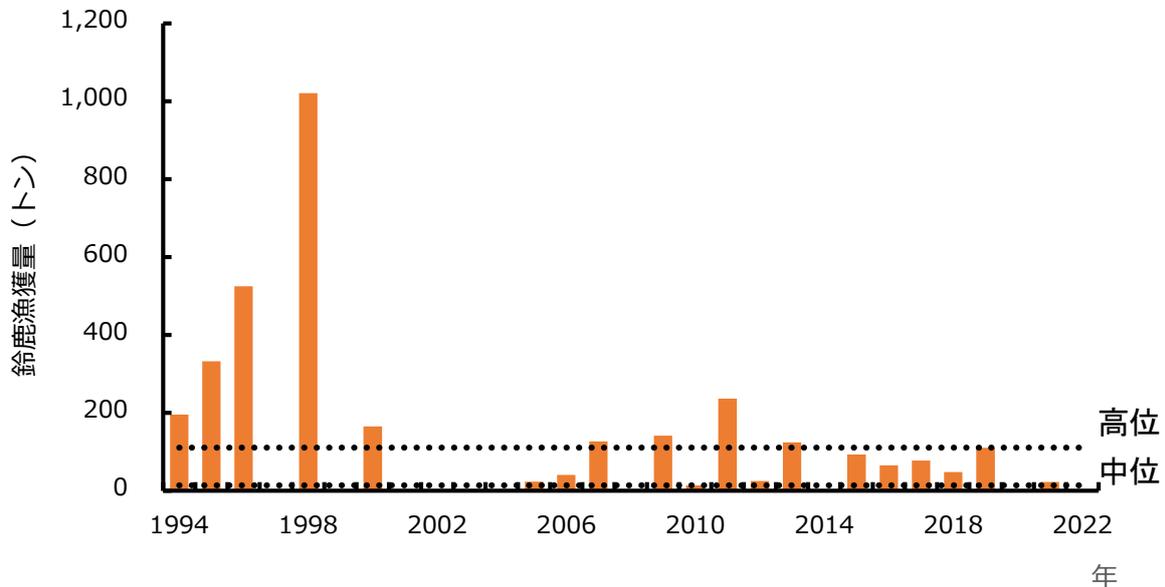


図1 鈴鹿地区の小型底びき網（貝桁網）における漁獲量および資源水準

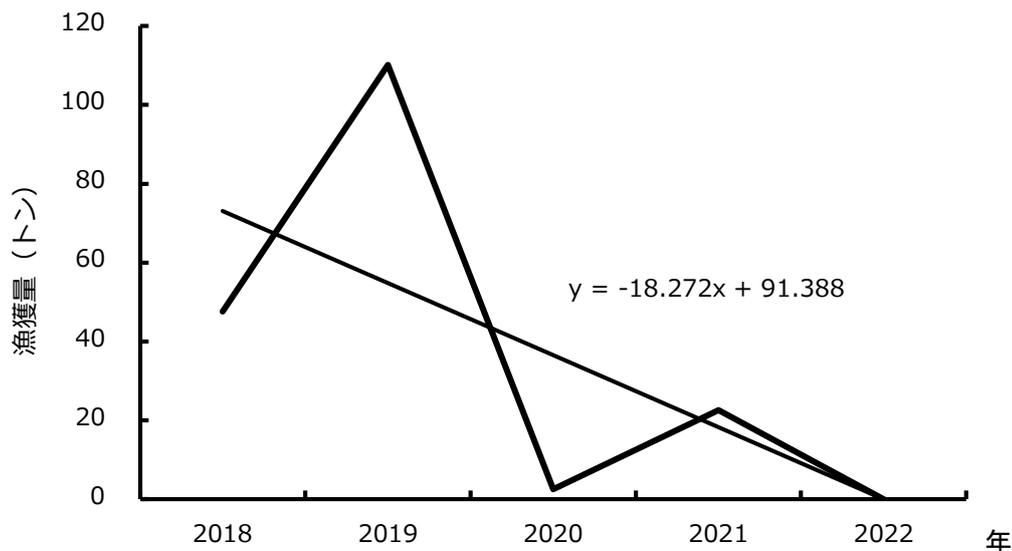


図2 鈴鹿地区の小型底びき網（貝桁網）における過去5ヶ年の漁獲量

・過去28年間（1994年～2021年）の鈴鹿地区における漁獲量の第一3分位点（13.6トン）を低位と中位，第二3分位点（110.1トン）を中位と高位を区分する基準値として判断した。2022年の漁獲量は0.01トンで、「低位」と判断された。一方，1995～1998年は多かったが，漁獲がほとんどないことは珍しいことではなく，長期的に資源が悪化している状態にあるとは言えない（図1）。

・2018年～2022年の5ヶ年の回帰直線の傾きは-18,272で，中間年（2020年）の推計値36,572で割ると年変動率は50.0%の減少となることから，資源動向は減少と判断した（図2）。

## 5. その他関連情報

県内他地区の状況を見ると，それぞれ年変動が大きく，各地区の増減傾向は一致しないが，2020年が極端な不漁であったことは共通している。直近では津市白塚地区や松阪地区で比較的多い。（図3）。

資源評価の精度向上のため，長期間のデータが利用できる地区を増やし，複数の指標で判断する必要がある。

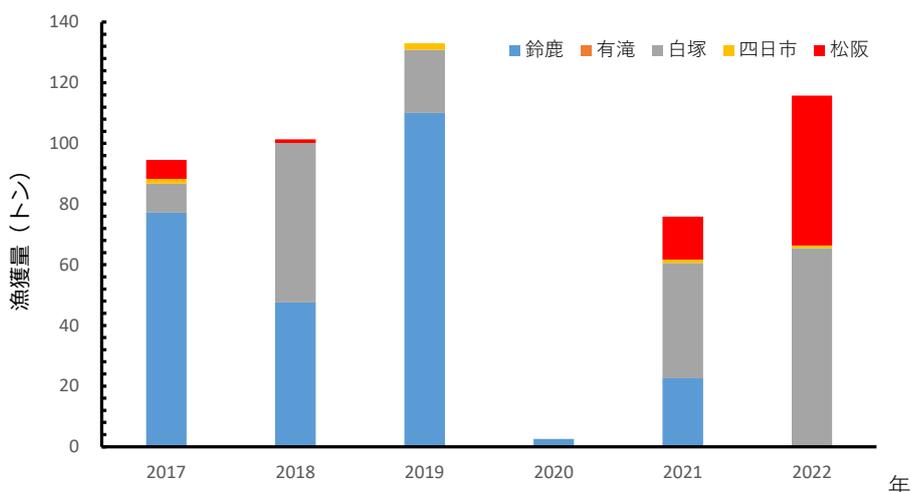


図3 鈴鹿，有滝，白塚，四日市，松阪地区におけるトリガイの漁獲量

## 6. 謝辞

本評価で使用した漁獲量は関係漁協が取得したものである。